

ノートパソコンの全学生への貸与の実施とその検証

河野 稔[†]

兵庫大学 情報科学センター[†]

1. はじめに

兵庫大学では、「情報リテラシ」を備えた人材を育成することを目標とし、その教育の一環として、1995年から7年間、1学部において全入学・編入学生に対して、B5サイズのノートパソコンの所有を義務付けたが、2003年からは、大学の全入学生に対して、ノートパソコンと周辺機器一式を無償で貸与することとなった。これは、社会情勢や教育の情報化など、社会的な要因を考慮した教育方法の見直しである。

本稿では、2年間の全学的なノートパソコンの無償貸与の取り組みについて、実施状況と学生からのアンケート調査を元に、貸与されたパソコンの利用による学生の意識や学習・生活スタイルの変化について検証する。また、情報機器を学生に提供する際の諸問題について述べる。

2. 実施概要

本取り組みは、「e-LearningなどITを活用した新しい学習形態によって、学生の自由かつ主体的な行動を促し、学生の学習・生活スタイルの変化を目指す」ことを目標として計画された。

対象は、大学のすべての学部（経済情報学部、健康科学部）の全入学生（定員ベースで340名）であり、入学直後から大学卒業までの、最大4年間大学から無償で貸与される。

貸与されるのは、大学が選定した全学部統一した機種である。2003・2004年度とも、B5サイズの2スピンドル（CD-RW/DVD-ROM内蔵）の機種である。機能として、無線LAN（IEEE 802.11b）内蔵し、利用が想定される実習での利用に耐えるバッテリー駆動時間（2時間以上）となった。付属品は、保護ケース、LANケーブル、リムーバブルドライブ（2003年度はFDD、2004年度はUSBフラッシュメモリ）である。ソフトウェアに

はオフィススイートおよびウィルス対策ソフト、各学部の授業において利用される各種ソフト（無償ソフトが中心）が、プレインストールされ設定済みになっている。

サポートとしては、貸与期間中の4年間は、メーカー保証と動産保険によって、ほとんどのケースの故障・修理に対応できるように、体制が整備された。

3. 実施状況

2003年度は260名（経済情報学部130名、健康科学部130名）、2004年度は340名（経済情報学部182名、健康科学部158名）の入学生に貸与された。これ以外に、修理期間中の利用機会を保障するために、学生へ貸し出す代替機が各年度10台ずつ、本体のリカバリCDとともに、サポートのために大学に用意された。

貸与時期は、各年度4月第2週に、全学共通の情報関係の基礎科目（必須）「コンピュータ演習」を利用し、貸与手続きおよび学生への配布を行った。また、この授業において、各種ソフトウェアや学内LANへの接続の諸設定など、導入支援を3回程度実施した。

2003年度には、画面の液晶部分が破損するトラブルが多発したため、2003年7月・10月には、メーカーから品質管理部門の担当者を招き、機器の構造や取り扱いに関する講習会を実施し、画面を補強する部品の配布と取り付けを行った。また、2003年度の夏季休業期間中に、世界規模のコンピュータウィルス（W32/MSBlaster）による被害が発生したため、コンピュータウィルスに対する特別講習会も、10月に実施した。

4. 授業での利用

シラバスや学生・教員からのアンケート調査を元に、授業中およびレポート・課題作成等、何らかの目的でノートパソコンの活用について、利用した授業科目数は、表1のとおりである。

1年次は、開講科目58科目に対して2003年度

Execution and the verification of loan of notebook PC to all students in university

[†]Minoru Kawano

Information Science Center, Hyogo University

で 39.7%，2004 年度で 43.1%の授業で利用されている。しかし，専門性の高くなる 2 年次では 2004 年度開講科目 97 科目に対して 13.4%の授業での利用と，十分利用されているとはいえない。

教員に注目すると，複数の授業でパソコンを導入できる教員もいるが，個人のスキルや授業内容などを理由に利用していない者も多い。

| | 2004 年度 | 2003 年度 |
|------|---------|---------|
| 1 年次 | 25 | 23 |
| 2 年次 | 13 | |
| 合計 | 38 | 23 |

表 1 ノートパソコンを利用した授業

5. アンケート調査

2004 年度に貸与された 1 年生を対象に利用状況に関するアンケート調査を実施した（いずれも記名式）。実施時期は 2004 年 7 月と 12 月の 2 回行い，それぞれ 1 年生が多く出席する授業で，授業担当者に調査を依頼して実施した。回答者数は，7 月が 241 名で 12 月が 232 名であり，それぞれ調査対象の 71.1%と 68.7%である。

学生生活という観点で，結果の要点をまとめると，次のとおりである。

まず，また，大学以外での利用目的ごとの全回答者に対する割合（複数回答）で調査した結果が，表 2 である。本学は 1 期と 2 期のセメスタ制をとっているが，7 月は 1 期で 12 月は 2 期にあたる。「大学の勉強」が 2 期に増えており，「趣味や遊び」は逆に減っている。

| 目的 | 7 月 | 12 月 |
|-------|-------|-------|
| 大学の勉強 | 67.6% | 78.5% |
| 資格や検定 | 4.6% | 4.3% |
| 趣味や遊び | 61.4% | 55.8% |
| その他 | 4.6% | 3.4% |
| 無回答 | 5.8% | 3.9% |

表 2 大学以外での利用目的

また，大学以外での，1 週間あたりの利用日数ごとの全回答者に対する割合を，表 3 に示す。1 期よりも 2 期のほうが，利用日数が伸びているのがわかる。大学での学習が進み，大学以外においても，本来の目的である教材として，ノートパソコンが活用されていることが示唆される。

ただ，大学内での利用日数に関する結果では，2 期の利用日数が減ってしまった。これは，パソコンを利用する授業が 2 期に少なくなってしまったためだと考えられる。

| 利用日数/週 | 7 月 | 12 月 |
|--------|--------|--------|
| 0 日 | 34.0% | 20.6% |
| 1～2 日 | 34.4% | 40.3% |
| 3～4 日 | 17.0% | 19.3% |
| 毎日 | 11.2% | 15.9% |
| 無回答 | 3.3% | 3.9% |
| 計 | 100.0% | 100.0% |

表 3 大学以外での週あたりの利用日数

さらに，7 月の調査の自由記述の分析から，パソコンの「気に入った点」という問いについては，持ち運びや利用の手軽さなどの携帯性や無線 LAN や DVD 閲覧など機能性を高く評価している回答が目立った。一方，「不満な点」について，本体の重さやバッテリー駆動時間に関する回答が多い一方で，「使うのが難しい」「壊れる」といった利用そのものへの不安を抱えている学生が少数ながらいいた。

6. まとめ

大学からノートパソコンを無償貸与された，大学 1 年生に対して，利用実態について，アンケート調査した。大学生活が進むにしたがい，大学以外においても「学習のツール」としてノートパソコンを活用している一方で，使いこなしや取り扱いに不安があることがわかった。引き続き，利用実態を追跡調査する必要がある。

今後の課題として，学生と教員の双方に対する支援体制が必要である。教材として貸与する以上，学生のパソコンの利用経験の格差に注意を払う必要がある。また，既設のパソコン教室との使い分けや，具体的な授業での活用方法の教員間での共有が必要であろう。

参考文献

- [1] 河野稔：「全学的なノート型パソコン貸与への取り組み」，平成 16 年度大学情報化全国大会，A-16，pp.104-105，2004
- [2] 河野稔：「兵庫大学におけるノート型パソコンの利活用と課題」，兵庫大学情報科学センター所報，No.1，pp.2-16，2004